

# 第1学年O組 社会科学習指導案

令和3年〇月〇日 〇曜日 第〇時

指導者 〇 〇 〇 〇

## 1 単 元 世界の諸地域

### 2 単元の目標

- (1) アジア、ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、オセアニアの地域的特色を資料から読み取り、大観するとともに、世界各地で顕在化している地域的課題は、それが見られる地域の地域的特色を受けて、現れ方が異なることを理解することができる。
- (2) 世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや他地域との結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し表現することができる。
- (3) 世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとする。

### 3 学習の計画 (28 時間完了)

- 第1次 第1時 世界の六つの州について大観し、単元の学習問題をつかみ、学習計画を立てる。
- 第2次 第2時～第6時 アジア州の経済発展と課題について調べる。  
 第7時～第12時 ヨーロッパ州の国境を越えた統合について調べる。  
 第13時～第15時 アフリカ州の自立のための開発と国際協力について調べる。  
 第16時 北アメリカ州の自然環境と人々の生活の特色について調べる。  
 第17時（本時） 北アメリカ州の農業について調べる。  
 第18時～第21時 北アメリカ州の産業について調べる。  
 第22時～第24時 南アメリカ州の開発と環境保全について調べる。  
 第25時～第27時 オセアニア州の多文化が共生する社会について調べる。
- 第3次 第28時 学習を振り返り、単元の学習のまとめをする。

### 4 本時の学習指導

- (1) 目 標
  - 北アメリカ州の農業の特色を資料から適切に読み取り、読み取ったことを農業の特色として理解することができる。
  - 北アメリカ州の農業が世界に大きな影響力をもち続けている理由を考えることができる。
- (2) 準備・資料
  - 生徒……前時のワークシート
  - 教師……ワークシート
- (3) 関 連
 

2年 社会 日本の地域的特色と地域区分（日本と世界との結び付きの特色）
- (4) 学習過程

段階	学 習 活 動	時間	指 導 上 の 留 意 事 項
つかむ	<p>1 前時までの学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。</p> <p>(1) 身近な農作物で、北アメリカで作られたものを予想し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小麦粉（小麦）</li> <li>・大豆</li> </ul> <p>(2) 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>なぜ北アメリカの農業は、世界に大きな影響力をもち続けているのだろう。</p>	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地形や気候などからみた農業の特色や、農業からみた世界との関係に着目させる。（地域どうしのつながり）</li> <li>○ アメリカやカナダは、生産した農作物を世界中に輸出していることから、その生産量に着目させ、本時の課題につなげる。</li> <li>○ 影響力の大きさは、輸出量の多さから判断できることを確認する。</li> </ul>

追 究 す る	2 北アメリカの主な農産物の生産量と輸出量を調べる。 ・小麦は輸出量の割合が高い。 ・大豆は、アメリカが生産量も輸出量も、世界の3割以上を占めている。	12	o 教P. 86のグラフを活用させる。  評資料から、北アメリカの主な農作物の輸出量を読み取り、世界の中で割合が高いことを理解している。(ワークシート)
	3 北アメリカの農業の特色をつかむ。 (1) 効率的な農業について調べる。 ・広大な土地で大型機械を使って大量生産している。 (2) 適地適作について調べる。 ・地形や気候に適した農業が行われている。  (3) 世界を支える北アメリカの農業について調べる。 ・アメリカの穀物メジャーは、穀物の売買だけでなく、穀物の消費動向や市場情報の調査などを幅広く行っている。	37	o 広大な農地で大型の機械を使い、効率的に農業を行っていることをつかませる。  o 教P. 87の主題図を活用して、アメリカやカナダの土地利用の様子をつかませる。 o 地図帳P. 63を活用させる。 評地形や気候の主題図と農作物の分布について関連していることを理解している。(ワークシート)  o アメリカやカナダでは、自国で消費されるよりも多くの農産物が大量に生産されていることに気付かせる。
	4 本時の学習のまとめをする。 (1) 北アメリカから世界へ多くの農産物を輸出できる理由を考え、発表する。 ・北アメリカでは、広大な土地を活用し、その土地に適した農作物を、効率的に生産しているため。 (2) 本時の学習を振り返り、次時の活動について知る。	50	o 本時の学習内容を活用して、自分の考えをまとめさせる。 o 北アメリカの国々が大規模な農業を続けていくための課題は何か、どのような努力が必要かなどを問いかけ、主体的な学びへとつなげる。  o 次時は、北アメリカの工業が世界に与える影響について考えることを予告する。

(5) 本時の評価規準

- o 農業についての様々な資料を関連させて読み取り、北アメリカ州の農業の特色を適地適作の特徴を意識して適切に理解している。(ワークシート)
- o 学習課題について追究したことを踏まえて、北アメリカ州の農業が世界に大きな影響力をもち続けている理由について、自分の考えをまとめている。(ワークシート)

## 5 備 考

(1) 学級の実態

- o 前単元の学習を通して、気候の違いによって衣食住に違いが生まれることに興味をもっている生徒が多い。しかし、グラフや主題図などの資料を読み取ることや、読み取った情報から考察することが苦手な生徒が多い。

(2) 指導の力点

- o 普段食べている食品の中に、アメリカやカナダで作られているものが多いことを意識させることで、なぜ人口が多い国が他国へ輸出できるほどの農産物を生産できるのかと関心をもたせ、意欲的に追究できるようにする。

## 6 指導と評価